

2019年度厚生労働省老健事業調査（「本人の思い」「本人・家族の生活」「市民の認識」「支援者の意識」）の報告

# 認知症 とともに生きる 本人、家族、市民の **声** 2020

第6回（全12回・分担執筆）

今回は、他にあまり例を見ない「認知症にかかわる支援者の意識調査」からの報告です。

## 認知症にかかわる支援者が考える 認知症の人と家族の生活

新潟県立看護大学老年看護学准教授  
公益社団法人認知症の人と家族の会理事

原 等子

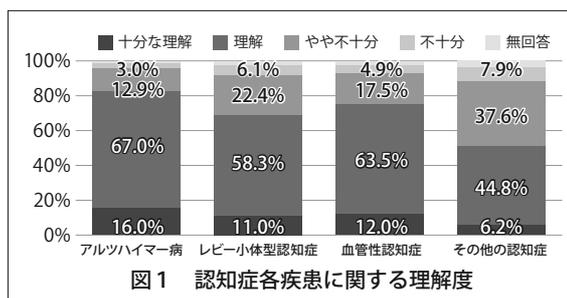
### 認知症にかかわる多くの職種・ ボランティアが協力

全国から集まった回答2,698件を分析しました。認知症にかかわる支援者とは、保健・医療・福祉の専門職から、民生委員、行政職員、ボランティア等まで、何らかの形で認知症の人や介護家族の支援を行う人で、幅広く協力をいただきました。回答者の職種・立場（複数回答）は、ボランティア（266件、全体の9.9%）のほか、主には介護福祉士（655、24.3%）、ケアマネジャー（594、22.1%）、看護師（536、19.9%）、社会福祉士（289、10.7%）の他、医師や歯科、リハビリテーション職などでした。

このうち会員は40.5%、認知症キャラバンメイト（認知症サポーター養成有資格者）は36.6%でした。主な職場は行政関係（自治体、地域包括支援センター）や居宅介護支援事業所が24.8%、通所・訪問施設20.3%、入所・地域密着型居宅施設17.6%、医療施設（外来・病棟等）13.5%、ボランティア・その他23.9%でした。

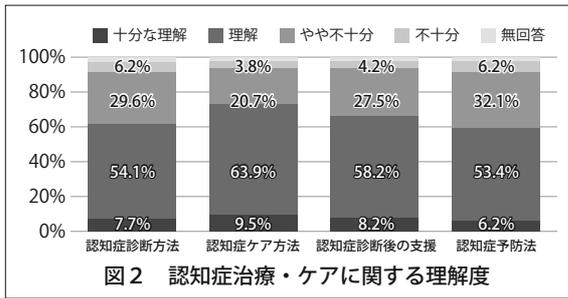
### アルツハイマー病に関する理解は高いが それ以外の認知症の理解は十分でない

認知症の疾患の理解度（図1）は、アルツハイマー病で「十分な理解」が16%、血管性認知症が12%でした。「理解」を合わせた割合は、アルツハイマー病で83.0%でした。支援者でもアルツハイマー病や血管性以外の認知症の理解は十分ではありませんでした。



### ケア方法は7割が理解をしてはいるが、疾患 ほどには治療やケア方法は理解されていない

認知症の治療やケアの理解度（図2）は、「十分な理解」が疾患よりも少なく、「理解」を合わせた割合はケア方法が73.4%でもっとも多く、具体的な治療や支援への理解がさらに必要です。



### 回答者の9割は認知症の人にやさしく接することができ、地域住民からの支援を期待

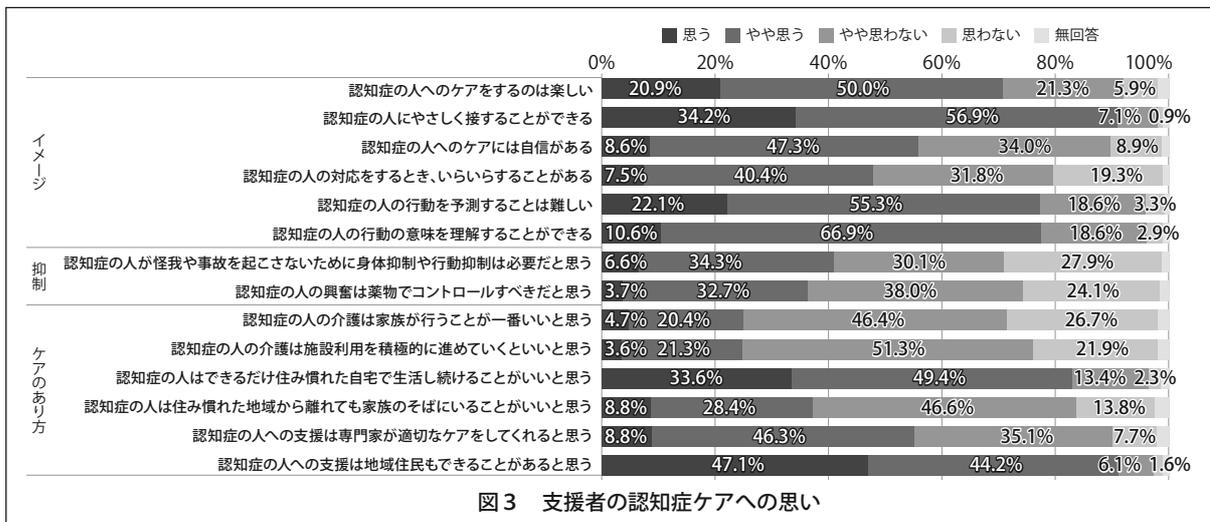
認知症ケアへの思いについて(図3)、認知症の人にやさしく接することができると思うは34.2%、「やや思う」と合わせると「思う」割合は91.2%でした。認知症ケアは楽しい、認知症の人の行動の意味を理解できると思うが7割である一方、認知症の人の行動を予測は難しいも同数おられ、ケアには自信がある、対応でイライラすることがあるも5割程度で同数でした。ある程度、認知症ケアに関心がある方が回答していることを踏まえると、認知症ケアは難しく、自信があるとはいえないが、やさしくありたいと思い、認知症の人を理解しようとして、認知症ケアを楽しもうとしている人が多いことがわかりました。

#### 認知症のケア時の身体抑制や行動抑制、薬物

による抑制について、認知症の人が怪我や事故を起こさないために必要だと思う割合は40.9%、興奮は薬物でコントロールすべきは36.5%でした。この割合は想像より少ないのですが、支援者でも4割であることは、多くの人が未だ辛い思いをしているということです。

認知症の人への支援は地域住民もできることがあるは91.3%、認知症の人はできるだけ住み慣れた自宅がいいは83.0%でしたが、認知症の人の介護は家族が行うことが一番いいは25.1%、住み慣れた地域から離れても家族のそばがいい37.2%、施設入所を積極的に進める24.9%でした。支援者は認知症の人がその人らしく過ごせる場所が自宅であればそれを支援し、支援は家族だけで行うのではなく、近隣住民とともに支援していく思いがありました。

ところで、認知症の人の支援は専門家が適切なケアを実践してくれると思うは55.1%でした。認知症ケアに自信があるも5割程度だったことから、支援者である専門家との関係は、お互いの本音を出し合って、難しい状況を一緒に悩みながら解決していく、そんな関係が期待されているのかもしれない。



報告書を希望される方は、1冊1,000円でおわけします。また、「家族の会」のホームページからダウンロードして読むことができます。  
 ●申込先 「家族の会」本部事務局 TEL 050-5358-6580 FAX 075-205-5104 メール office@alzheimer.or.jp

本人  
登場

私らしく  
仲間とともに

No.179



健康に気をつけて、  
毎日笑顔で過ご  
したい！

いのうえ しげ こ  
井上 茂子 さん

一石蔵カフェ・その2ー

63歳・栃木県支部

早くにご主人を亡くされ、娘さんたちも独立して  
今はお姑さんと二人暮らし。「カフェで救われた」  
と、カフェへ自転車で40分余かけて通い、ワイン  
を愛し、周りの人たちを、笑顔で明るく包んでいま  
す。本部事務局とカフェをつないだインタビューか  
ら第2回目は井上さんの登場です。

（編集委員 松本律子）

### 診断は、59歳の頃、泣いたわ〜!!

娘が、「お母さん、ちょっとおかしいよ」と、  
病院に連れて行ってくれました。自分では、お  
かしいと思わなかったけれど、娘はえらい！と思  
った。娘には感謝しています。でも、「ふざけんな  
〜!!」って、かなり一人で泣いた。

病気にはいつも泣いている。乳がんを3回もや  
っているんです。いい先生に恵まれて、薬も娘た  
ちのすすめで続けています。

### 家のことさせてもらえないのは、辛い

姑と二人っきりだから、ここだけの話、やっぱ  
り辛いです。こういう病気になったからと、家の  
こと、あまりやらせてもらえない、台所も立たせ  
てもらえない。家に帰っても何もできない、それ  
はけっこう辛い。だから、ワイン飲みたくなる  
の。認知症の人って、どうせできないでしょ、ど  
うせ忘れるでしょって、切られちゃうんですよ。

### カフェで救われた

診断されて、車は娘にあげたの。お返しはテレ  
ビ、値段がずいぶん違うけど。だから、今は自転  
車で、カフェまで40分以上は結構キツイよ。

カフェは楽しい。言葉にならないほど楽しい。  
病気のこと分かってくれて、スタッフのみんなが

ほんとに優しく、「シーちゃん、あれやってね」  
「それ全部やってからこれしてね」って。カフェ  
で救われた、助けられた。パワーをもらった。カ  
フェがなかったら、ここにいなかったかも…。

### 今度は勝ちに行きたい!

負けたと思うことが何回もあったけど、今度は  
勝ちに行かないとね！ガンには勝ったけど、認知  
症には負けて、一人で怒鳴ったこともあるわ…負  
けちゃダメね〜笑ってた方がいいかもしれないけ  
ど、そこのところ、負けちゃってる。



◀ボランティアの小学生と料理の盛り付けをする井上さん



▲「みんなでトライ!!」のサロンで「私の作った料理がメニューに入るかな?」



▶みんなで作った料理



### 本人交流の場

(詳細は各支部まで)

北海道●10月5日(月)13:15~15:30/北  
海道の本人・家族のつどい→かでの2.7  
宮城●10月1日・15日(木)10:30~15:00  
/翼のつどい→泉区南光台市民センター  
埼玉●10月17日(土)11:00~14:30/若

年のつどい・深谷→フラワーヴィラ会議室  
岐阜●10月18日(日)11:00~15:30/あ  
すなる絆会→集い処笑福  
●10月25日(日)11:00~14:00/アルト  
ひまわり会→アルト介護センター長良  
愛知●10月10日(土)13:30~16:00/元  
気かい→東海市しあわせ村  
広島●10月10日(土)11:00~15:30/陽  
溜まりの会広島→中区地域福祉センター

徳島●10月17日(土)13:30~15:30/縁  
の会→県立総合福祉センター  
福岡●10月3日(土)10:00~12:30/あま  
やどりの会→福岡市市民福祉プラザ  
熊本●10月3日(土)13:00~15:00/若年  
性認知症のつどい→支部事務所

新型コロナウイルス感染の影響により、  
変更ないし、中止となる可能性があります。

# 会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3  
岡部ビル2F  
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-205-5104

Eメール office@alzheim.or.jp

ぼーれぼーれ6月号  
「介護体験」を読んで

## ワンチーム体制のその後は？

●山形県 Aさん 70歳代 女性

私の知人は、ふるさと（実家）の両親の遠距離介護をされていましたが、お母様を亡くしてから単身のお父様を引き取り、小規模多機能型のサービスを利用しながら在宅で介護されています。

知人は介護施設でパートをされており、仕事内容は人手不足や重度の方への介護、支援で厳しい中、頑張っているらしいです。介護家族の立場、施設職員の立場ともに当事者です。

知人から届いた手紙には、介護家族と施設スタッフのワンチーム体制のその後を是非知りたいネと書いてありました。全国の会員の中には、越野氏と同じ立場の方が多いと思います。機会がありましたら、いつかその後の奥様とともにいらっしゃる姿を私たちに届けて下さい。あきらめず、良い方向にいかれている姿は励みになります。

## ストレスがたまります

●東京都 Bさん 60歳代 男性

母親の様子がおかしいと気づいてからも、ずっと私がひとりで世話をしてきました。ここ2年くらい急に様子がおかしくなって、今年5月に前頭側頭型認知症と診断され、介護認定を申請、要介護1の認定を受けました。徘徊とか暴言はありませんが、やはり母親とはいえ、認知症の人と同居しているのはストレスがたまります。

## お風呂嫌いの対処法は？

●兵庫県 Cさん 50歳代 女性

80歳代の義母はうつ症状が強く、声をかけないと1日中寝ており、デイサービスを含め、散歩に連れ出したりすることに神経を使います。

衛生概念がなく、お風呂を嫌がります。また、同じタオルを何日も持ち歩くので、隙をみて洗濯するようにしています。お風呂は週1回入る頻度です。その割に、頭や身体が痒いと訴えてくるので、骨がおれます。お風呂嫌い対処法、教えて頂きたいです。

## 大事にしなければ

●愛知県 Dさん 70歳代 男性

71歳の妻は3年前に「意味性認知症」と診断された。毎日畑へ出かけて野菜作りに精を出していたのが、昨年栽培の仕方を忘れ、雑草取りしかできなくなってしまったため、私が仕事を辞め、かわりにやったことのない野菜作りの農作業に汗を流しながら挑戦しています。

今は新型コロナ蔓延の中で、ふたりで買い物→畑仕事に通うのが日課です。30年来、妻がひとりで畑をやってきて、新鮮な野菜を食卓に提供してくれましたが、自分が体験してみても初めて黙々と頑張ってきた妻の大変さを痛感し、感謝の気持ちと「大事にしなければ」との思いを一層抱くようになりました。





ぼ～れぼ～れ8月号  
「デイサービスの真髄とは」を読んで

## ウソも使い方次第？

●埼玉県 Eさん 60歳代 女性

実父は今、私の家から車で10分くらいのところに独居しています。週3回デイサービスを利用していますが、認知症が進むに従って話の理解力が低下していきました。

デイサービスに行ったことを毎回忘れてるので、初めのうちは父から尋ねられる度にきちんと説明してあげようと思ひ、できるだけ丁寧に話をしていましたが、逆に混乱を招き、父は不機嫌になるし、私もイライラしてつい声を荒げてしまい、お互いイヤな気分になりました。ある時ヘルパーさんがそんな様子を見て、説明するのはむしろ逆効果になるので、説明はやめた方が良いというアドバイスを受けました。ヘルパーさんにも一緒に考えてもらい、デイサービスに行くときは「健康診断に行く」という事にしました。デイの施設では、行けば必ず血圧や体温を測るので全くデタラメなことを言っているわけではないので。

それからこの頃思うのですが、ウソも方便と言うように、ウソも使い方次第でお互いに気持ちよくいられるのでしたら、上手にウソをつくことも必要なのではないかと思います。私も父が理屈を言ってきたときには、とっさの返答に詰まりドギマギしてしまうことがたくさんあります。そんな時、こうすればいいのかな、ああ言えばよかったんだな、という試行錯誤して対処法を見つけながら父を見守っています。一人ひとり性格が違うので、対処の仕方もそれぞれ異なってくると思いますが、Cさんのお母様にとってしっくりくる言い方が何かあるのではないかな？と思います。上手な言い方が見つかるとういいますね。

## 最期の貴重な時間

●福井県 Fさん 80歳代 女性

80歳代の夫はレビー小体型認知症で睡眠障害が、介護を苦しい時間に追い込んでいました。介護保険施設は暴力がなくても、受け入れてくれず、精神科に入院となりました。毎日の面会で、状態に波があることなどを伝えてきました。病院側に本人の状態をもっと理解して対応して欲しかった。半年間で要介護1が5になりました。入院して3カ月後の特養入居時の姿に、家族は自宅介護の厳しさと夫の人生の最期をどのように支えてあげられるかを考えさせられた。コロナで面会ができなくなり、再び眠れない夜が続いています。

アルツハイマーだけが認知症でしょうか？薬物以外で穏やかに過ごせる環境は作れないほど人的資源は不足しているのですか？在宅で介護している時は施設職員だった経験を活かし、きちんと介護をしてきたのに、残念です。早くコロナが終息して、施設に入居した夫と日光浴をしたり、昼食を食べたり、最期の貴重な時を充実して過ごしたいです。

ぼ～れぼ～れ7月号

「ラインを開設してほしい」を読んで

## オンライン交流の場も検討中です

編集委員

オンラインでの交流も積極的に行いたい、というご意見ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症が収束しない中、本部・支部でさまざまな取り組みを模索し実施し始めているところです。今もalun-alunというインターネット交流サイトはありますが、より参加しやすい場も用意できるように、現在検討しています。

※お名前はイニシャルではありません。  
年齢は「50歳代」等で表記しています。